

このまま地球を汚染してゆくと地球も地獄になると警告している。5章(赤い星の神秘)は火星探測の話で、本書中もっとも興味深く読める。6章(旅人の物語)は木星探測の話で、ここで上巻は終わっている。

7章(天のかがり火)は古代科学史の中での天文学が語られる。8章(時間と空間の旅)は相対論の話から恒星間飛行が語られるが、テレビで相対論をガモフ流に(光速を極端に小さくする)見せたのは大変おもしろかった。9章(星の生命)は恒星の誕生から死までを原子の世界から始めてブラック・ホールの向うの世界にまで言及する。10章(永遠のはて)は銀河の話から4次元の世界、宇宙論へと発展する。11章(未来への手紙)はくじらの海中通信のエピソードから人の頭脳の話になる。12章(宇宙人からの電報)はシャンボリオンのロゼッタ石の解説のエピソードから宇宙人の存在確率、異質文明との接触について語られる。13章(地球のために)は人類が核戦争から生き残るために科学のなすべきことは何かをアレキサンドリアの古代図書館の話のエピソードとして語りしめくくっている。

訳はセーガン博士に文才がありすぎるのか、苦勞のあとがうかがえるわりにすらすら読めるとはいかない。いずれにしても天文屋が訳したのでは手に余ることうけあい、科学普及書のあり方について一石を投じたことは確かである。(田中 済)

星座 12 力月

富田 弘 一 郎 著

(岩波ジュニア新書 24, 岩波書店, 昭和55年12月22日発行, 新書版, 256頁, 580円)

本書は、岩波ジュニア新書の一冊として、主に中学・高校生を対象に、各月ごとの星座を解説するなかで、天文の基礎的事項についても要領よく触れてある本である。その性格上、一気に読むというよりは、星座を眺めるたびに、対応する箇所を何度も読み返すのに適した本である。

著者の富田氏は、彗星・等の太陽系内微小天体の観測・研究と観測装置の開発に永年従事してこられており、このような本には打って付けの方と言えよう。直接お目にかかったのは、岡山天体物理観測所で一度あるだけだが、情熱的な話しぶりは、お年よりずっと若々しい印象を受けた。本書からも、氏の天文学に対する情熱が感じられる。ミスプリントもほとんど見られなかった。

本文は、大きく5つに分かれる。まず導入部で、星座の変遷や星の呼び方・等級・色等の、後の部分を読むのに必要な知識がまとめられている。次いで、冬(1~3月)の星座、春(4~6月)の星座、夏(7~9月)の星座、秋(10~12月)の星座の4つの部分で、各月ごとの星座が解説されている。解説は主に、星座の由来とそれに

まつわる神話、星座を構成する主な星の明るさ・色・固有有名から成っている。特色ある天体の話題にも随意触れている。その合い間に項を改めて、天文の基礎的事項について説明されている(例えば冬の星座の所では、うるう年・大気差・歳差・連星・白色矮星等)。

星座の解説から基礎的事項の説明へのつながりは無理がなく、スムーズに入っている。例えば、6月の星座の所では、梅雨の季節が始まり星座の見られない日が続く話や6月10日が時の記念日である話があった後、時刻の決定の説明に入るといった具合である。また、各月の星座の解説の導入文は、中学・高校生の生活にマッチしており、彼らに共感を持って読まれるであろう。

ただ、中学生にはやや理解しにくく、説明図を付けた方がよいのではないと思われる箇所(例えば、p.51の「北極星の高度=土地の緯度」の説明)がいくつか見られた。また、小さい星座の中には、バイエル符号の付いた星座の図がないか、あっても解説文からずっと離れたページにあるため、構成する星の位置関係がすぐにはつかめないうものがあつた。さらに、一等星の表や星座の表は、本文の途中に置くよりも、巻頭か巻末に置く方が見つけ易いのではないかと思つた。

しかし、説明はおおむね平易で分かり易い。中学・高校生はもとより、星座に関心を覚えた大人にとってもよきガイドとなるであろう。新書版であるので、携帯にも便利である。星座に疎い評者も、これからは旅行に持参するつもりである。(吉岡一男)

お 知 ら せ

宇宙科学研究所教官公募

1. 公募人員 教授3名
- 2,3. 所属部門及び内容

(1) 宇宙圏研究系: 赤外線天体物理学部門教授

主に飛翔体からの赤外線観測による天体物理学の研究。同研究系には、現在高エネルギー天体物理学第1, 第2部門があります。

(2) 太陽系プラズマ物理研究系: 磁気圏プラズマ物理学部門教授

惑星磁気圏の構造、ダイナミクス、及び惑星間空間に於ける粒子加速現象の研究、同研究系には、現在磁気圏電波科学部門があります。

(3) 惑星研究系: 惑星大気物理学部門教授

地球を含む惑星系の飛翔体による観測研究及び理論的研究。同研究系には、現在、超高層大気物理学部門、惑星大気計測学部門があります。

4. 着任時期 昭和56年度内の成る可く早い着任を希望。

5. 必要書類 (1)略程 (2)研究歴 (3)論文リスト及び主要論文別刷各1部 (4)他薦の場合、推薦者、自薦の場合、本人について意見を述べられる人2名(氏名、連絡先)
6. 締切 昭和56年8月31日
7. 宛先 宇宙科学研究所 所長 森 大吉郎
〒153 東京都目黒区駒場 4-6-1
(代表) 電話 03-467-1111
8. 問合せ 不明の点、及び資料の請求は下記に願います。
- (1) 宇宙圏研究系 田中靖郎 内線 308
(2) 太陽系プラズマ物理研究系 大林辰蔵 内線 320
(3) 惑星研究系 平尾邦雄 内線 334

9. 選考 選考は、宇宙科学研究所運営協議員会議に於て行います。応募者中に適任者がない場合決定を保留することがあります。
10. その他
- 宇宙科学研究所は、東京大学宇宙航空研究所が発展的に改組し、昭和56年4月14日付を以て、新たに発足した国立大学共同利用機関です。
 - 当該部門の責任者として、且つ、国内に於ける共同研究、並びに国際協力研究に主導的役割を果す方を希望します。
 - 封筒の表に、「教授応募(推薦)書類在中」と明記して下さい。

賛助会員名簿

(1981年6月5日現在の本会賛助会員は下記のとおりであります。ここに社名、代表者名を掲載させて頂いて感謝の意を表します。(五十音順))

旭光学工業株式会社	松本徹	天文博物館	
朝日新聞社科学部	木村繁	五島プラネタリウム	五島昇
アストロ光学工業株式会社	滝沢磐	東京電力株式会社	平岩外四
岩波書店	緑川享	東北電力株式会社	若林彊
宇宙開発事業団	山内正男	長瀬産業株式会社	
大阪市立電気科学館	辰己博	コダック製品事業部	福島寿治
沖電気工業株式会社	佐藤敦之雄	ナルミ商会	村上俊男
カールツァイス株式会社	波木泰雄	日本光学工業株式会社	小秋元隆輝
河出書房新社	清水勝	(株)日本測量協会	宮地政司
関東電気工業株式会社	関井忠夫	(財)日本地図センター	宮地政司
国際文献印刷社	笠井康弘	日本通信機株式会社	川島穰雄
啓文堂松本印刷	松本喬	日本特殊光学	山田坂雄
恒星社厚生閣	佐竹久男	日立製作所	
五藤光学研究所	五藤隆一郎	通信機事業部通信営業部長	木内佳幸
コロンビヤ貿易株式会社	飛田利一	富士通株式会社	
金光教本部教庁	金光鑑太郎	システム統轄部	三次衛
サンシャインプラネタリウム	堀家邦男	丸善株式会社	飯泉新吾
誠文堂新光社	小川茂男	三鷹光器株式会社	中村義一
関商事株式会社	関周	三菱電機株式会社	
地人書館	中田威夫	宇宙開発部	中村憲二
		ミノルタカメラ株式会社	田嶋一雄

1981年4月の太陽黒点 (g, f) (東京天文台)

1	—	—	6	—	—	11	13,	176	16	—	—	21	18,	144	26	9,	83
2	—	—	7	14,	130	12	14,	152	17	17,	184	22	14,	105	27	11,	70
3	16,	98	8	16,	156	13	—,	—	18	16,	191	23	13,	80	28	7,	74
4	—	—	9	14,	228	14	12,	149	19	—	—	24	13,	79	29	11,	77
5	—	—	10	11,	166	15	16,	176	20	15,	169	25	—	—	30	—	—

(相対数月平均値: 193.9)

昭和56年6月20日	発行人	〒181 東京都三鷹市東京天文台内	社団法人 日本天文学会
印刷発行	印刷所	〒162 東京都新宿区早稲田鶴巻町251	啓文堂松本印刷
定価 300円	発行所	〒181 東京都三鷹市東京天文台内	社団法人 日本天文学会
		電話 三鷹31局 (0422-31) 1359	振替口座 東京 6-13595